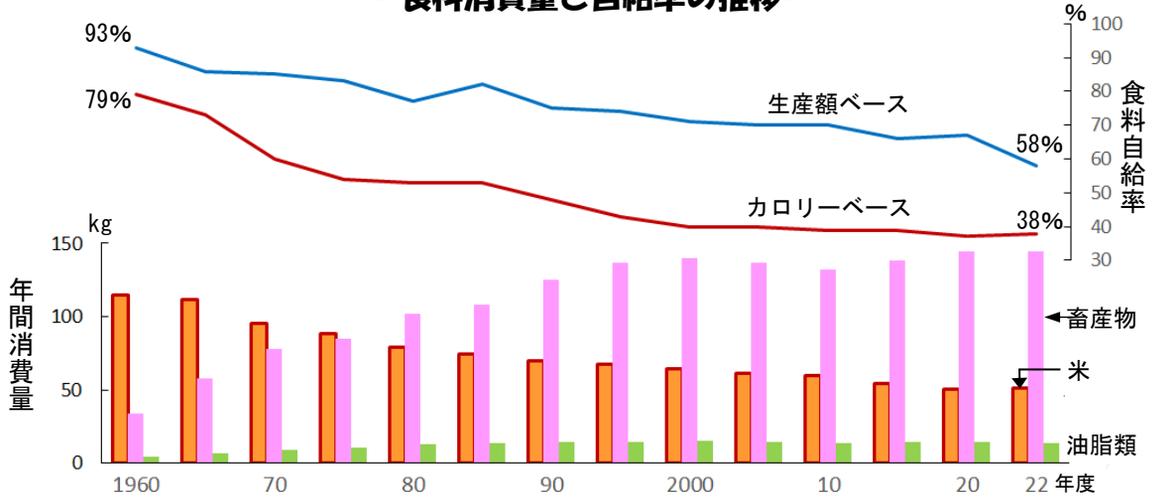


なぜ農業問題は都市住民(消費者)の問題なのか

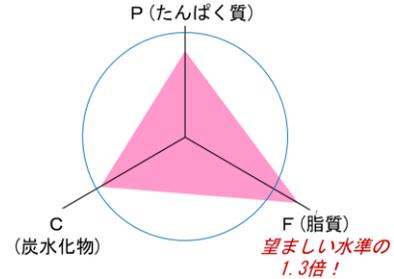
1 食料自給率低下の原因は、食料消費(食の選択)の激変

— 食料消費量と自給率の推移 —



1人1年当たり供給純食料	[1960年度]	→	[2022年度]
米	114.9 kg	→	50.9 (6割減)
畜産物	33.7 kg	→	144.8 (4.3倍)
油脂類	4.3 kg	→	13.5 (3.1倍)

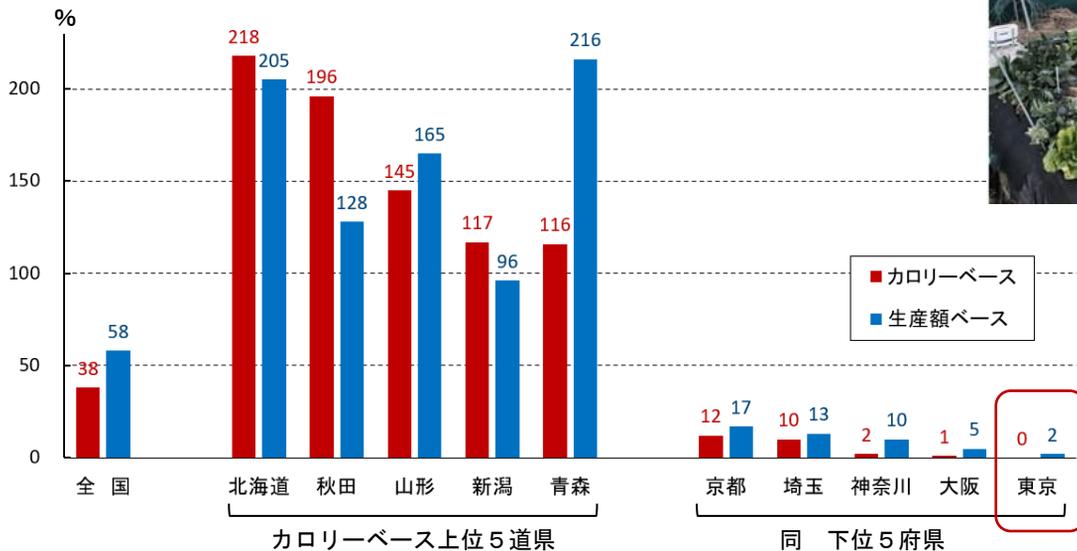
— 健康面でのリスクも —



資料：農林水産省「食料需給表」、厚生労働省「日本人の食事摂取基準(2025年版)」から作成。
https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/zikyu_10.html
<https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/001396865.pdf>

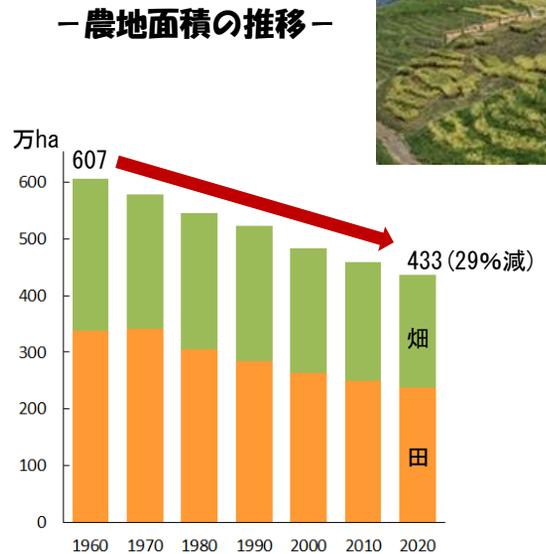
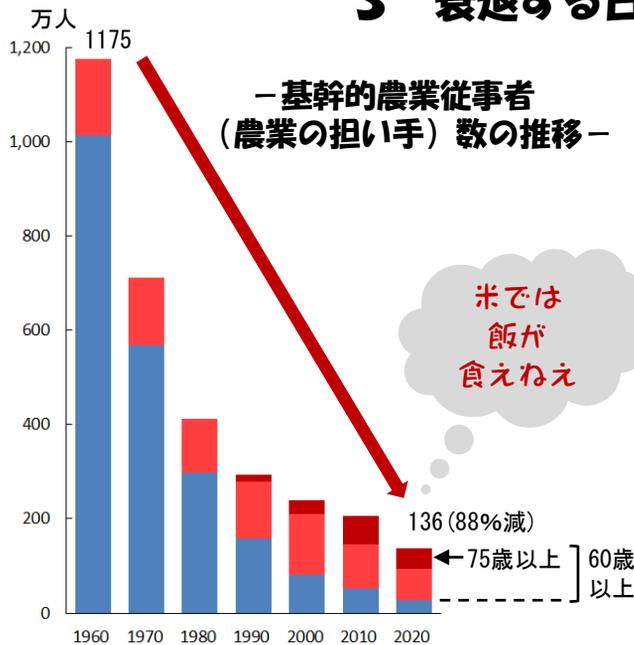
2 最初に飢えるのは都市住民?

— 都道府県別の食料自給率(2022年度概算) —



資料：農林水産省「都道府県別食料自給率」から作成。
https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/zikyu_10.html

3 衰退する日本の農業



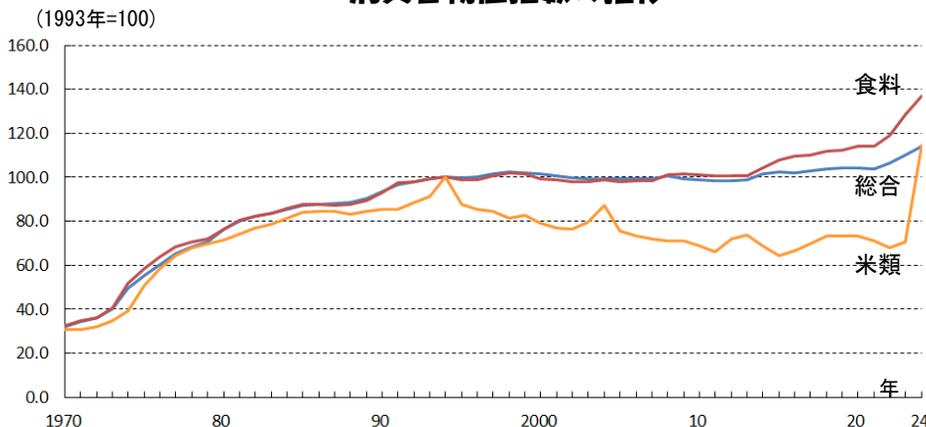
1人の担い手が支えている人口
[1960年] 約8人 → [2020年] 約93人 (12倍)

1人当たり農地面積
[1960年] 197坪 → [2022年度] 105坪 (47%減)

資料：農林水産省「農林業センサス」「作物統計」から作成。
<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noucen/index.html>
<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/index.html>

4 米価高騰？ = ようやく一般の物価に追いついた

— 消費者物価指数の推移 —



資料：総務省「消費者物価指数(時系列データ)」から作成。 <https://www.stat.go.jp/data/cpi/1.html>
 注：1993年を100とした数値に換算(単純計算)した数値である。

5 食(消費者、都市)と農(生産者、農村)の間の距離の拡大

都市の消費者にとって、食べものは単なる「商品」に
 → 食べものを大切にできる心、生産者や産地、自然環境に対する畏敬の念の喪失
食品ロス量は472万トン (2022年度・消費者庁。ちなみに米の収穫量は670万トン)



私たちにできること：農を自分ゴト、身近なものに
 (例えばベランダで野菜を作ってみる、取り寄せてみる、産地・生産者を訪ねる)

